

## 巻頭言

2017年度は、本研究所にとって設立50周年にあたる記念すべき年でありました。

10月に開催されました記念国際シンポジウム、記念式典、記念祝賀会には、国内外から本研究所にゆかりのあるたくさんの方々にお集まりいただきました。本研究所への暖かい励ましや、将来の研究所の方向性に関する貴重なご意見などを含め、様々なお言葉をいただき、感謝の念に堪えません。本研究所が多くの方に親しまれ、愛され、見守られていることを実感いたしました。本研究所の応援団の皆様の期待に添えるよう、決意を新たにしました次第です。

本研究所の目標は、設立当時と変わらず、「がんに関する学理及びその応用研究」を進めることです。全国の附置研の中で唯一、がんの研究に特化した本研究所の特色を生かして、優れた基礎研究とそのシーズを活用した革新的な診断・治療法の開発や臨床応用、また、将来のがん研究や医療を担う人材の育成に貢献したいものです。

2017年度は、その戦略を「見える化」するために、研究組織の改編を行いました。研究所概要に組織図を掲載しておりますが、研究所の組織は、基幹プログラムと戦略的プログラムから構成されています。基幹プログラムは、それぞれの研究分野の基盤的な研究活動から成り立ち、一方、戦略プログラムでは、現在、研究所全体として特に推進しなければならないミッションを明示しています。さらに、最も重要なミッションとして、次世代を担う若手研究者の育成が挙げられます。若手研究者の研究推進の一環として、新学術創成研究機構(InFiniti)のがん進展制御研究コアの若手PI教員、卓越研究員がメンター教員の研究分野と連携しながら独立的な研究を進めています。次に、共同利用・共同研究拠点活動の推進が挙げられます。現在、2期目の「がんの転移・薬剤耐性に関する先導的共同研究拠点」としての活動を継続していますが、2017年度も、国内共同研究に加えて国際共同研究も積極的に採択し、実施いたしました。それを支える研究資源の充実も図りました。また、国際化を進めるために、海外研究機関からの研究者招へいや、海外連携研究機関とのジョイントシンポジウムに若手研究者を派遣するなど、研究所の国際化による拠点機能強化を実践しました。

ここに、2017年度の各研究分野の活動状況を報告致します。各研究分野の研究への取り組みについてご理解頂く機会となれば幸いです。

金沢大学がん進展制御研究所長 平尾 敦